NPO法人六樹会パソコンサロン 令和2年度第7回理事会 議事録

開催日時　令和2年9月6日（日曜日） 午前10時00分から午前12時00分
開催場所　Zoom による Web 会議
理事総数　7名
出 席 者　岡田 まき子、鎌田 洋、川本 牧子、中垣 修、藤崎 和子、山下 征一郎、横尾 敏雄
以上理事7名(敬称略)

資　　料　橿原教室応用科（研修科）の開催について

議　　題　1.令和2年度の橿原教室の開催講座について（調整）
2.令和2年度開催の各教室の講座等について（確認）
3.その他

【開催目的】

9月から始まる本格的な令和2年度の講座運営については、8月28日に講師会を開催して意識合わせを行ったところであるが、翌29日以降に、橿原教室の受講生確定作業を進める中、講座総括担当者の責任において調整を行った結果について、講師の中から従来の講座運営の基本から外れているとの意見があり、講座運営に関する基本事項であり、また、事業運営上の問題でもあるため、講師会ではなく理事会として開催した。なお、受講生確定作業における宇陀教室、香芝教室については、ほぼ講師会の意識合わせ通りである。

【議事内容】

1.令和2年度の橿原教室の開催講座について（調整）

9月からの橿原教室を開催するにあたって募集した「応用科」の応募者が8月29日現座4名であり単独開催は難しく、講座総括担当が相談サロン開催日までにと急いで設けた「研修科」の開催について、その開催の是非について調整を図った。

（1） 対策案

議案集に示す通り、講座総括担当より橿原教室の開催について、下記の3案が提示された。

① 第1案　「応用科」として開催する（第2・第4水曜日の午後）
② 第2案　「研修科」として開催する（第1・第3水曜日の午前）
③ 第3案　「応用科」「研修科」に分けて開催する
「応用科」：第2・第4水曜日の午後、「研修科」：第1・第3水曜日の午前）

（2） 検討結果

① 結果：第（3）案に決定

② 理由：少ない受講生の講座運営上、非常に厳しいものがあるが、基礎科修了生と応用科修了生の知識のレベルは異なり、講座運営上、支障がでることもあり、また 受講生の立場から見れば、「応用科」と「研修科」を設けて開催するのがベストであると判断

③ 今後の検討事項

○ 「研修科」の受講者数を増やすため、「相談サロン」受講者の中から「研修科」希望者を募る

○ 対面時の「研修科」の教室の確保ができなければ、オンライン継続

2. 令和2年度開催の各教室の講座等について（確認）

理事会開催後、9月11日までに講座総括担当が行った受講生調整結果は、次のとおりである。

教室名	講座名	人数（名）	講座担当者
橿原教室	応用科	11	横尾・藤崎・鎌田
	研修科	13	
宇陀教室	応用科	13	山下・岡田・鎌田
	研修科	16	
香芝教室	基礎科	11	横尾・川本・鎌田
	応用科	19	
相談サロン		22	横尾・鎌田・中垣
合計		105	

3. その他

8月28日の講師会から今回の理事会まで様々な意見交換がメールでなされたが、議案集のとおり、本会の運営（あるべき姿）等の意見があり、改めて意見交換を行った。様々ない意見があり、時間の関係で結論に至らなかった項目もあり、別途日を改めて意見交換を行う事とした。

主な意見は次のとおりである。

○ 相談サロンのあり方について・・・希望者増加に伴う対策を今後考える必要がある

○ 『「六樹会」のあるべき姿とは』について

「受講生第一」という気持ちは 当然全員の意識の中にあるが、それぞれの立場によって、自ずと異なっており、再度、別の日意識合わせを行う事にした。

○ 議案集に「事務局長及び講座総括担当の席を離れるべきかと思います。・・・」に対して、「継続をお願いしたい。」の意見があったが、本人から「私のやり方に いろいろ

意見があるようで、「あるべき姿」について、今後、話し合いの機会を持って 一人一人の意見を聞きた」とのことで、別途日を改めて意見交換を行う事にした。

○ 三役から、「講師の皆さんに…ご苦労頂きました。はじめてのZoomなのに、いろいろ頑張ってもらったことに凄いことやってもらったと、感謝している。“ありがとう”と 心から申し上げたいところ、全員の気持ちです」

4. 意識合わせ中の主な発言

○ 「受講生第一」と言っても、時と場合により講座運営を考える。つまり、それは、逆に、受講生を大事にすることにつながり、仲間作りとなっている

○ 今後のあり方として「相談サロン」を分けるという考えに賛成です。
あまりにも増え過ぎてきた、それは、サロンがいいからだと思うし、その人たちを大事にしていく方法として 相談サロンを二つに分けるのも良い方法だと思う。

○ 話を聞いていて気づいた…三役は、常に全体を見て どうしたらよいか 考えてくださっている。そして、講師は、それに ずっと“おんぶにだっこ”です。こまめに、受講生の自宅訪問やパソコンの改造、Zoom を使えるように指導するなど、なかなか出来るものではない。

○ 三役が 全体を見てくださっている反面、私は自分の教室しか見ていない。その違いを埋めるのは何か、考えているが まだわからない。

○ 私は、対面で話がしたい。思いっきり、そこで話し合いたいと思っている。

○ 私の考えではなくて、「基礎科」を終了したら「応用科」に進むという方針でやってきたことを進めるということであって、私が言ったからではないということを はっきりしていただきたい、

○ 講師のために「基礎科」から「応用科」をもう一回作るという考えは 絶対間違っている。今まで積み上げてきた六樹会の方針、やっぱり もう一年、「応用科」までやって、終わるということがベスト。これは、誰が無理を言ったのではなく、講座の流れとして守っていただきたいこと

○ 私たちは「1つのコマ」と言ったことに、気分を害されようだが、そういう意味ではない…違うとらえ方をされて、私もショック。私たちは、六樹会を作っている一つのコマであり、そのコマたちは、六樹会の信頼という盤の上で、みんなが一生懸命 教室のことを考えながら頑張っている。みんなは 信頼している。決して、小さなコマとみられているという意味ではない。わかってほしい。

（文責　岡田）